

中間報告書（平成 22 年度）

提出者 田中 紀行

提出年月日 2011 年 4 月 1 日

【プロジェクト名】

和文 モダニティ論からみた公共圏の理論的検討

英文 Public Spheres from the Perspective of Theories of Modernity

【メンバー構成】

研究代表者 田中紀行

幹事 園知子

メンバー 吉田純、油井清光、三上剛史、中村健吾、濱西栄司、高橋顕也、田村周一、田恩伊、林端

【ねらいと目的】（600 字程度）

このプロジェクトでは国際共同研究「公共圏と『多元的近代』の社会学理論」の成果を踏まえて、さまざまな社会的モダニティ論を基礎として公共圏に関わる基礎的諸問題を理論的に検討し、そのうえでアジアにおける公共圏にアプローチするための視座についても可能な限り示唆を引き出すことをめざしている。従来通り基本的にはヴェーバー、パーソンズ、ルーマン、ハーバーマス、アイゼンシュタット、ベックらの社会学理論の研究を出発点としながら、公共圏ならびにこれに関連する概念の整理と公共圏の歴史的多様性・アジア的特殊性に関する考察を平行して進める予定である。公共圏論をより包括的なモダニティ論（等のマクロ社会学理論）と関連づけながら考察するところに本研究会の特色がある。公共圏の概念は政治哲学の文脈で規範的な意味合いで議論されることが多く、他方この GCOE 全体では親密圏の残余カテゴリーのような位置づけがなされていて、社会科学で従来用いられてきた公共圏概念との整合性は必ずしも明確ではない。こうした状況に鑑み、我々は主として社会的モダニティ論の見地からこの概念の明確化に貢献したいと考えている。

【活動の記録】

2010 年 7 月 24 日 第 1 回研究会（阿部潔 [関西学院大学教授]「監視社会における公的／私的領域の変容—公共圏における「時間性」をめぐって」）

2010 年 10 月 2 日 第 2 回研究会（川野英二 [大阪市立大学准教授]「リスク社会とネガティブな個人主義 —リスクバイオグラフィーの多様性について」、中村健吾「『社会の終焉』(A. トゥレーヌ) とはいかなる事態を意味するのか」(文献紹介)）

2010 年 12 月 4 日 第 3 回研究会（田村周一 [文献紹介]「Ulrich Beck & E. Grande, "Varieties of second modernity: the cosmopolitan turn in social and political theory and research," in: *The British Journal of Sociology*

61(3), 2010, pp.409-43」、油井清光「近代化論の現代的可能性と東アジア—多元的近代、圧縮された近代、そして第二の近代」)

2011年2月19日 第4回研究会(林端「先秦儒教の役割理論における自己と他者」、首藤明和[兵庫教育大学准教授]コメント)

【成果の概要】(800字程度)

4回の研究会を通して、昨年度までの共同研究では必ずしも十分に議論できなかった下記のような問題をとりあげて討議することで、いくつかの知見ないし示唆を得ることができた。

- (1) 阿部潔氏の報告では、近年の監視社会研究の成果を踏まえて、監視強化のもとでの公的/私的領域の再編成について考察が行われた。その際、監視研究と公共圏研究の理論的接点が「空間性」に加えて「時間性」についても存在すること、ハーバーマスの公共圏論/近代論では監視社会のもとでの時間性の変容のもつ問題性を十分に批判することが難しいことなどが指摘された。
- (2) 川野英二氏の報告は、「第二の近代」のもとでの強い個人化と新しい社会的リスクとしての「経歴」(biography)不安定化に焦点を合わせたもので、経歴不安定化の計量分析の結果、家族によるサポートの有無や福祉レジームのあり方によってそのプロセスが大きく左右されることが明らかにされた。これに続く中村健吾氏によるトゥレーヌの文献紹介とあわせて、現代における「社会的なもの」の変容について討議した。
- (3) 油井清光氏の報告では近年の国内外の主要なモダニティ論が包括的に検討され、モダニティの地域的な多様性を深く厚い相違としての「多元性」(plurality, multiplicity)と捉えるのか、普遍的な諸要素の組み合わせ方の相違としての「変異性」(variety)と捉えるのかをめぐる方法論上の対立の重要性に注意が促された。
- (4) ウルリヒ・ベックのモダニティ論、とりわけ「第二の近代」論の発展としての「コスモポリタン化」論について、2010年秋の来日シンポジウムを踏まえて集中的に検討することができた。
- (5) 林端氏の報告では社会学の役割理論の観点から古代中国の儒教倫理に含まれる人間関係の規範の分析と再評価が試みられ、中国社会における親密圏/公共圏の分化の特徴を理解する上でも興味深い示唆が行われた。

【通信欄】

(事務局記入欄)

プロジェクト	<input type="checkbox"/> 次世代	<input type="checkbox"/> 次世代ユニット	<input type="checkbox"/> 男女共同参画に資する調査研究
--------	------------------------------	----------------------------------	---

経費	予算額	(千円)	実績額
----	-----	------	-----